

(別紙様式1)

平成30年度の目標及びその達成に向けた活動計画

都道府県名： 山梨県

農業委員会名： 道志村農業委員会

I 農業委員会の状況(平成30年3月31日現在)

1 農家・農地等の概要

農家数(戸)		農業者数(人)		経営数(経営)	
総農家数	153	農業就業者数	34	認定農業者	5
自給的農家数	131	女性	18	基本構想水準到達者	1
販売農家数	22	40代以下	4	認定新規就農者	1
主業農家数	2	※ 農林業センサスに基づいて記入。		農業参入法人	1
準主業農家数	1			集落営農経営	0
副業的農家数	19			特定農業団体	0
				集落営農組織	0

※ 農林業センサスに基づいて記入。

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	普通畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	50.0	29.0	29.0	0.0	0.0	79.0
経営耕地面積	22.0	5.0	5.0	0.0	0.0	27.0
遊休農地面積	0.8	14.1	14.1	0.0	0.0	14.9
農地台帳面積		0.0				0.0

※1 耕地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 経営耕地面積は、農林業センサスに基づいて記入

※3 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

2 農業委員会の現在の体制

旧制度に基づく農業委員会

任期満了年月日 H 年 月 日

	選挙委員		選任委員				合計
	定数	実数	農協推薦	共済推薦	土地改良推薦	議会推薦	
農業委員数							0
認定農業者	—						0
女性	—						0
40代以下	—						0

新制度に基づく農業委員会

任期満了年月日 H 32年 7月 19日

	農業委員		定数	実数	地区数
	定数	実数			
農業委員数	6	6			
認定農業者	—	1			
認定農業者に準ずる者	—	1			
女性	—	1			
40代以下	—				
中立委員	—	1			

	定数	実数	地区数
農地利用最適化推進委員	4	4	6

*現在の体制を記載することとし、旧・新しいずれかの記載事項は削除

II 担い手への農地の利用集積・集約化

1 現状及び課題

現 状 (平成30年3月現在)	管内の農地面積	これまでの集積面積	集積率
	79.0 ha	17.5 ha	22.2 %
課 題	農業従事者の減少・高齢化や、兼業農家(自給農家)の増加により耕作放棄地が増加しており、優良農地の確保が必要である。また、現状の担い手農家において、経営規模の拡大を積極的に行おうとする農家が少ないため、経営改善を図り優良農地を利用集積していく必要がある。		

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 これまでの集積面積は、把握時点において担い手(認定農業者及び農業委員会法施行規則第10条で定める者)へ利用集積されている農地の総面積を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

目 標	集積面積 1.0 ha (うち新規集積面積 ha)
	目標設定の考え方: 前年度と同一の目標を設定する。
活動計画	4月～農地の利用集積に向けた掘り起こし活動(意向調査の結果を基に担い手への利用集積が可能な農地の確保)

※1 集積面積は、当該年度末時点で担い手へ利用集積されている農地の総面積を記入

※2 新規集積面積は、集積面積のうち1年間に新規集積面積(非担い手が自作又は利用していた農地のうち、担い手に対して権利の設定・移転させた農地)をどの程度増加させるかを記入

※3 活動計画は、目標の達成のために何月に何を行うのか等詳細かつ具体的に記入

III 新たな農業経営を営もうとする者の参入促進

1 現状及び課題

新規参入の状況	27年度新規参入者数	28年度新規参入者数	29年度新規参入者数
	経営体	経営体	経営体
	27年度新規参入者が取得した農地面積	28年度新規参入者が取得した農地面積	29年度新規参入者が取得した農地面積
	ha	ha	ha
課 題			

※1 新規参入者数は、過去3年の農地の権利移動を伴う各年度ごとの新たな新規参入者を記入し、法人雇用や親元就農は含まない(欄の最も右が昨年度)

※2 新規参入者が取得した農地面積は、上段で記入した経営体が取得した農地面積の合計を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

参入目標数	1 経営体	参入目標面積	ha
活動計画	昨年度に移住してきた者の中から具体的な農業参入の意志がある者の新規参入を目指す。		

※1 目標は、1年間に新たに参入させる新規参入者数及び参入目標面積を記入

※2 活動計画は、目標の達成のために何月に何を行うのか等詳細かつ具体的に記入

IV 遊休農地に関する措置

1 現状及び課題

現 状 (平成30年3月現在)	管内の農地面積(A)	遊休農地面積(B)	割合(B/A×100)
	93.9 ha	14.9 ha	15.9 %
課 題	農業者の高齢化と後継者不足、また、生産性の低い農地・基盤整備のされていない耕作不便地において耕作放棄地の発生が増加している。様々な条件や状況を踏まえ、中間管理機構などを活用しながら耕作放棄地の発生の抑制、解消策が求められる。		

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積と農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した同法第32条第1項第1号の遊休農地の合計面積を記入

※2 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

2 平成30年度の目標及び活動計画

目 標	遊休農地の解消面積	1.0 ha		
	目標設定の考え方:	過去数年目標未達成であるが、昨年度と同程度の目標値とする。		
活動計画	農地の利用状況調査	調査員数(実数)	調査実施時期	調査結果取りまとめ時期
		10 人	8 月～ 9 月	10 月～ 12 月
	調査方法	平成29年度の調査を踏まえ、地図情報システムを活用し現地調査を実施する。		
	農地の利用意向調査	実施時期	調査結果取りまとめ時期	
		1 月～ 3 月	3 月～ 4 月	
その他				

※1 遊休農地の解消面積は、当該年度末時点の遊休農地の解消面積を記入

※2 遊休農地の解消面積は、市町村等が策定した目標を農業委員会が共有している場合には、当該市町村等の目標を記入しても差し支えない

※3 「その他」欄には、利用状況調査・意向調査以外の遊休農地解消のための活動を記入

V 違反転用への適正な対応

1 現状及び課題

現 状 (平成30年3月現在)	管内の農地面積(A)	違反転用面積(B)
	79.0 ha	0.0 ha
課 題	現在、当管内において違反転用の事例はない。	

※ 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※ 違反転用面積は、把握時点において管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定等に違反して転用されている農地の総面積を記入

2 平成30年度の活動計画

活動計画	農地パトロールとともに違反転用についても調査し、案件があれば指導していく。
------	---------------------------------------

※ 活動計画は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何を行うのか等詳細かつ具体的に記入